

いいで

平成26年1月30日発行
飯豊町農業委員会
電話 0238(72)2111(代)



年頭のごあいさつ

飯豊町農業委員会

会長 高橋 亨 一

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、ご健勝にて新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く情勢は、担い手の高齢化、耕作放棄地の拡大、米価の下落、TPP交渉参加等に加え新たに農政改革が打ち出されました。日本型直接支払制度の創設、経営所得安定対策の見直し、そして農地中間管理機構も今年よりスタートします。

一方では、米政策が主食米から飼料米への転換を進める動き等、一連の農政改革は新時代への幕開けなのかもしれません。今農業はさまざまな課題を抱える中、重要な局面を迎えており農家の所得の向上、担い手の育成、農村の多面的機能に因應するためにはあらゆる角度から多くの支援が必要であると思えます。

農業委員会は、変動する農業政策の動きに的確に対応し、皆様方にお伝えすることが大切な使命との思いで行動してまいります。また今年は3年に一度の農業委員の統一選挙の年です。農政の急展開の中、担い手農業者や、女性等、積極的な登用が望まれています。

今後とも、農業委員会活動に対しまして、多大なご理解とご協力を賜りますように心よりお願い申し上げます。

今年も実りある良き年となるようご祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。

女性農業委員と 女性農業者の座談会

昨年十二月に女性農業委員と女性農業者の座談会を開催しました。その様子を紹介いたします。

◎質問内容

- ①現在の現況
- ②どのような農業経営をしていますか
- ③将来のしたい事



遠藤美佐子委員

- ①私は添川で代々稲作をやっています。
- ②現在六haを経営しています。七品目の米を作付し、ほとんどが直売です。直売と言っても、ネット販売でなく、ロコミでの販売にしています。
- ③全国に販売しているので、多くの方々との繋がりが増え、親戚付き合いのようになって楽しく販売しています。今後もこの人間関係を大切に、米だけでなく、飯豊町の農産物のピーアールもしていきたいと考えています。



椿・小川春子さん

- ①私は平成七年に横浜から嫁ぎ、農業を全然わかんないまま、農業を始めました。
- ②嫁いだ当初は、露地キュウリだけで、そのあとハウスキュウリを始めました。平成八年に長女を出産してから、三女一男に恵まれ、子育てしながら農業に取り組んでいます。花が好きだったので、ドライフラワーや、リース作りに参加し、楽しみながら、ハウスの一部に好きな花を植えたり、野菜を作ったりしています。
- ③これからの農業は女性の目線も大切だと思います。家族の健康を考えた女性としての役割も考えて行きたいと思っています。



高橋幸子委員

- ①昭和四十五年、下川原農事組合法人を設立し、酪農をしています。今は農事組合としてやっていて、代表理事という役職にいます。
- ②3人娘の長女が、酪農大学を卒業して、今年就農して一緒にやってくれます。夫も、長年務めた会社を辞めて農業を始めました。
- ③粗飼料の自給率を向上して、安定した所得が得られる酪農経営を目指したいと考えています。



中・佐藤艶子さん

① 私は、稲作と和牛の繁殖をしています
 ② はじめ夫は会社員で、忙しい時は手伝ってくれていましたが、年々忙しくなり、平成十七年に仕事をやめて、一緒に農業を始めました。
 ③ 転作で牧草と稲のホールクroppを生産しているので、その飼料を牛の餌として、自給率を上げ、所得増収にしたいと考えています。



萩生・藤野更織さん

① 九年位前に主人と一緒に新規就農して、飯豊町に来ました。私がこの仕事を選んだきっかけは、出身が北海道で、埼玉に嫁いだのですが、前から土と関わる仕事がしたいという思いがずっとあったからです。植物と接するのが好きで、そういうのがベースにあつたので、埼玉で農協のアルバイトしていて、そこでいろんな野菜を作っていて、それで少しずつ自分も経営してみたいと思いました。
 ② トマト二十a、里芋二十aやっています。里芋を直売所、山形の生協の方に販売しています。
 ③ 飯豊町というのは、自然豊かで、景色が美しいけれども、その分自然が厳しい。だからこそ、作物が絶対に美味しいと思います。今後減農薬で、安心して、安全な作物を提供できるよう頑張りたいと思います。この環境だから出来るものを作って行きたいと思っています。また、若い人たちにとって、私たちがやっている農業が魅力ある仕事と思ってもらえるようにしたいです。

平成二十五年十二月十七日に女性農業委員（遠藤美佐子、高橋幸子）が主体となって飯豊町の女性農業者を対象に座談会を開催した。

稲作、畜産（酪農・和牛繁殖）、野菜（ハウス）と経営分野は異なるものの時間の経過とともに話はずんだ。農家に生まれた人、農家に嫁いだ人、Iターンで農業を始めた人など農業を始めるきっかけが様々な分、特に女性農業者は、農業を色んな目線で見つめているのが話し合いの中でよくわかる。夫婦で農業が出来る生きがい、家族経営の中でも独立した女性での働き、女性の目線での女性としての役割など話し合いは「食」へと及んだ。また六次化により農産品に対してのストーリーをもつ大切さ、家事をしている女性ならではの食育の考え方など、常に情報を集め対応していくことが重要で、経営目線をしっかり持つことを認識し合った。二時間を超える話し合いの中から、改めて多くの表舞台での女性の活躍に期待したい。最後に、今後もこのような意見交換会の機会を持つて飯豊町の農業の活性化つなげていきたいと感じた。

（浅野章委員）

農業委員視察研修レポート（十一月七日～八日）

鮫川村の農産物直売所、「手・まめ・館」を訪ねて

鮫川村は福島県の南部にある人口四千人ほどの村。村を一言で言えば「美しい里山」です。ホタルが飛び交うであろう美しい農村景観です。主産業は農業や畜産業で、「手まめ館」はそのシンボルとなる直売所と加工場、そして食堂とカフェの複合施設です。平成十六年から始めた「まめで達者な村づくり」は、人口減少の歯止めにも一定の効果が現れています。

イソフラボンを多く含む大豆の「ふくいぶき」やα-リノレン酸を主成分とした「エゴマ（別名…じゅうねん）」の生産を奨励。お年寄りが大豆やエゴマ作りで体を動かし、収穫の喜びを味わい、全量を村で買い上げ、さらにそれを食べることで健康増進につながります。そして、収穫物はこの手まめ館で「達者の豆腐」「達者のみそ」「じゅうねんだレ」「じゅうねん油」など、付加価値の高いヘルシーな特産品に仕上げ販売しています。この取り組みには二百人以上の農家が参加し、いまでは一日平均二百三十人ほどの来客があるそうです。

働き口ができたことで、若者たちのUターン・Iターンも続々と増えているそうです。また、手まめ館では学校給食の米飯や食材を供給したり、鮫川村バ イオマスヴィレッジ構想の軸となったりと、食だけではなく村づくりの力かなめりとなっています。

おいしい農産物を口にするたび「人間は土の上でしか生きられない」といつも思われます。福島の風評被害や少子高齢化にも負けず、活き活きとした村づくりを目指して、いる鮫川村の取り組みを今後の活動に生かして行きたいと思いました。

（船山寿一職務代理）



編集後記

昨年末から農政改革の概要が相次いで、報道されている。農地中間管理機構と日本型直接支払制度の創設、そして経営所得安定対策と米政策の見直しなど、これらの改革が、果たして農業を振興し、農村を活性化することができると、それを確かめる大事な一年目を迎えた。

農業者の公的代表である農業委員は、これまで人・農地プランの策定に大きく関わり、地域営農の未来図を描く牽引力となった。今回の農政改革は、このプランに与える影響が極めて大きい。今後、益々農業委員の果たす役割が重要となってくる。また、町では「飯豊・農の未来賞」懸賞論文を募集中である。国レベルの農政改革に振り回されない、独自に飯豊町の実態に沿った農業を進めていく最初の一步を踏み出す節目の年といえるかもしれない。

広報委員

◎浅野 章

舟山 眞也

遠藤美佐子

高橋 幸子

舟山眞也委員

町ホームページから
さらに情報を!

農業委員会のお知らせや情報は飯豊町ホームページにも掲載しています。

<http://www.town.iide.yamagata.jp/>